

善徳

七三四一〇〇〇四
広島市南区宇品神田四一十一八
善徳寺

このところ、芸能界で活躍していた人たちの自殺が相次いでいます。

人気もあり、実力も評価が高く、又、人間的にも真面目で、周りにも悪く言う人がいないような人たちが、人生の道半ばで死ぬという選択をしてしまうことが、何故？という疑問と同時にとても残念で悲しい出来事になります。

自殺というと、何か人生に負けてしまったというように、否定的な感じを持つ人も多いと思いますが、それは違うと思います。これも不治の病の一つだったと思うのです。

重大な病気で亡くなる人に対しては、普通、気の毒だとは思いますが、それは仕方がないことであって、本人には何も悪い感情を持つ人はないと思います。

しかし、自殺というと、何かその人が悪いことをしたような、否定的な気持ちになっってしまう人が多いのではないのでしょうか。

でも不治の病にかかってしまったら、本人の努力だけではどうにもならないでしょう。そういうことだと思えます。ただ、不治の病ではなかった可能性もあります。目の前に見える世界がすべてだと考えないでいられたら…、少し考え方を変えることができていたら、もしかすると、その選択を避けることができたのではないかと口惜しく感じます。

親鸞聖人は、「よんじの」と、みなもってそらごとだはごと、まことあることなきにただ念仏のみぞ、まことにておはします」と言っておられます。この世のことは、なにもかも真実のものはない。

真実のものは、ただ念仏だけである。真実だと思っていたことが、後から嘘だとわかったということはよくありますし、人間の世界は、いろいろな人の利己的な思惑の絡み合いで動いているものです。

無常の世界で生きている人間が為すことは、あらゆるものが空しい虚構である。その中で真実とは、如来さまの清浄な心が形になってあらわれた、念仏というもののしかないのだとおっしゃっています。

我が身自身を、また世の中の真実を、ごまかすことなく、ありのままに見つめられた人の言葉だと思えます。そういう中に生きているのだということを実感できた時、自分にも他人にも、過剰な期待をすることなく、精一杯生きられるのではないのでしょうか。どんな人も、この世に生

報恩講法要

十一月十九日(木)
昼席一時より三時まで
講師 八本松町 叶 裕子先生

常朝時

十月より再開しています
毎朝七時より八時まで
正信働勤行と經典解説
現在、大峯顕著「高僧和讃を読む」を音読中
どなたでもお参り下さい

百才体操についてお知らせ
只今、定員一杯です。欠員が出るまで新会員の参加はお断りしております。

秋季永代経法要

十月二十日(火) 昼席一時 夜席七時半
二十一日(水) 朝席八時 昼席一時

講師 北九州市小倉南区 新道寺 山下 信順 先生
尚、十九日(月) 午後一時よりおみがきをします。
ご参加下さい。

令和三年度前期

回忌法要御案内

(敬称略)

一周忌(令和二年寂)
 一月 松中 昭 三宅百合子
 二月 花本広子
 二月 堀本美智子
 三月 岸 孝子 山下千昭
 四月 長野 洋 渡 喜和
 北崎 敏彦
 五月 寺西征司
 六月 半田 斌 金丸万壽子
 田立昌和 小林勝義
 小池文子 眞鍋安正

三回忌(平成三十一年 令和元年寂)
 一月 宮田憲三 原田桂子
 大坪徳裕 谷村正夫
 山本武俊
 二月 崎本眞利子 岡朶義孝
 松浦サノ卫
 三月 浅山百合子 米本順一
 竹井睦子 小山田妙子
 四月 藤原明美 西本ミチ子
 樋谷百合子
 五月 島本 学
 六月 伊藤一寿 福本隆史
 木本幸雄 大窪利康
 三登 勲

七回忌(平成二十七年寂)
 一月 川口君枝 中田幸三
 石井蓬菜 石井末一
 二月 辰野夕ミコ 梶下繁人
 三月 宮崎迪彦 服部光雄
 四月 藤井榮子 三上智子
 五月 三原秀明 山本 強
 久保龍三
 六月 池田壽美 余頃好子
 片山イク子 西本俊三

十三回忌(平成二十一年寂)
 一月 石原静雄 古久保隆
 中村 清 久保安雄
 金丸 傳
 二月 田中増一 新谷まり子
 藤井英子 岡田明正
 藤原一義
 三月 和気平太 原口信子
 浜田整三 荒二井芳夫
 福本春早
 四月 梶本初樹 永井暁久
 原田 寛 村上フミ子
 五月 安田光子
 六月 元井博文 矢舖義幸

一七回忌(平成十七年寂)
 一月 新山茂雄 荒川 幸
 二月 北野幸男 高木アキ子
 三月 時安圭子 丸山祐典

三月 田中ヨシコ
 四月 北山義幸 原アサコ
 丸岡松子 大成信枝
 藤岡克己
 五月 田村敏子 上本知栄
 木村ハスミ 田代友行
 柳川光義 花田實男
 西藤嘉宏
 六月 山崎智江子 大成藤枝
 寺西利成 豊田アイ工
 富士田キヨ子

二十五回忌(平成九年寂)
 一月 水船嘉徳 三浦安治
 大成静雄 三上 薫
 小田ミサカ 林 和則
 松浦 勇
 二月 宮本レイ子 岡田壽夫
 花井 務
 三月 中村初子 奥田 弘
 原 久輝 阿津地 悟
 高橋又三工
 五月 小迫弘彦
 六月 本田 隆 石原義夫
 安森シカ 新井アヤコ

三十三回忌(平成元年寂)
 一月 大下ミツヨ 吉村 齊
 新川忠郎 関コノ工
 庄原 均
 二月 伊藤 優 朝岡ヨシ工
 三月 小山田スガ 荒谷慶一
 江口チヨ子 梶本レキ
 四月 林 静江
 五月 金井実次郎 平本実夫
 奥迫力ズヨ 石原保子
 六月 石原勸平

五十回忌(昭和四十七年寂)
 一月 岩井ハルヨ 小村倣成
 四月 福本八三八 宇吹京一
 松本房人 荒谷正義
 越智義雄 高畑マスノ
 小早川卓夫 長瀬栄次
 勝吉ユキ
 六月 大成作一 山口九市



写真 中土井弘子

敬 弔

お浄土に参られた方を謹んでお知らせ致します。

八月八日寂 段原一丁目
 井上 富子様 行年八十九才
 九月十二日寂 神田四丁目
 長村 浩二様 行年八十六才

郵便番号 七三四一〇〇〇四
 広島市南区宇品神田四丁目十一の八宗教法人 善徳寺
 電話 082(251)6029
 もみじ銀行宇品支店(普)008・0686234

「善徳」年七回発行
 護持会員には毎回配布
 ホームページ「宇品善徳寺」